

1-3-3 河川藻類

現地調査計画

調査の目的

額平川水系における河川藻類の現状把握を目的に調査を実施しました。

ここでは、平成 16 年度に実施した調査のうち、10 月までの調査結果を報告します。

調査の方法

調査項目	調査方法	
河川藻類	定量採取	調査は、平瀬の河床を構成する礫の表面について、面積 5cm × 5cm の定量採取を行い、採取試料について、顕微鏡下で種の同定、計数を行なった。
	目視調査	定量採取の他に、目視確認可能な藻類の採集も来ない、藻類の出現状況を相対的に判定した。

調査日程

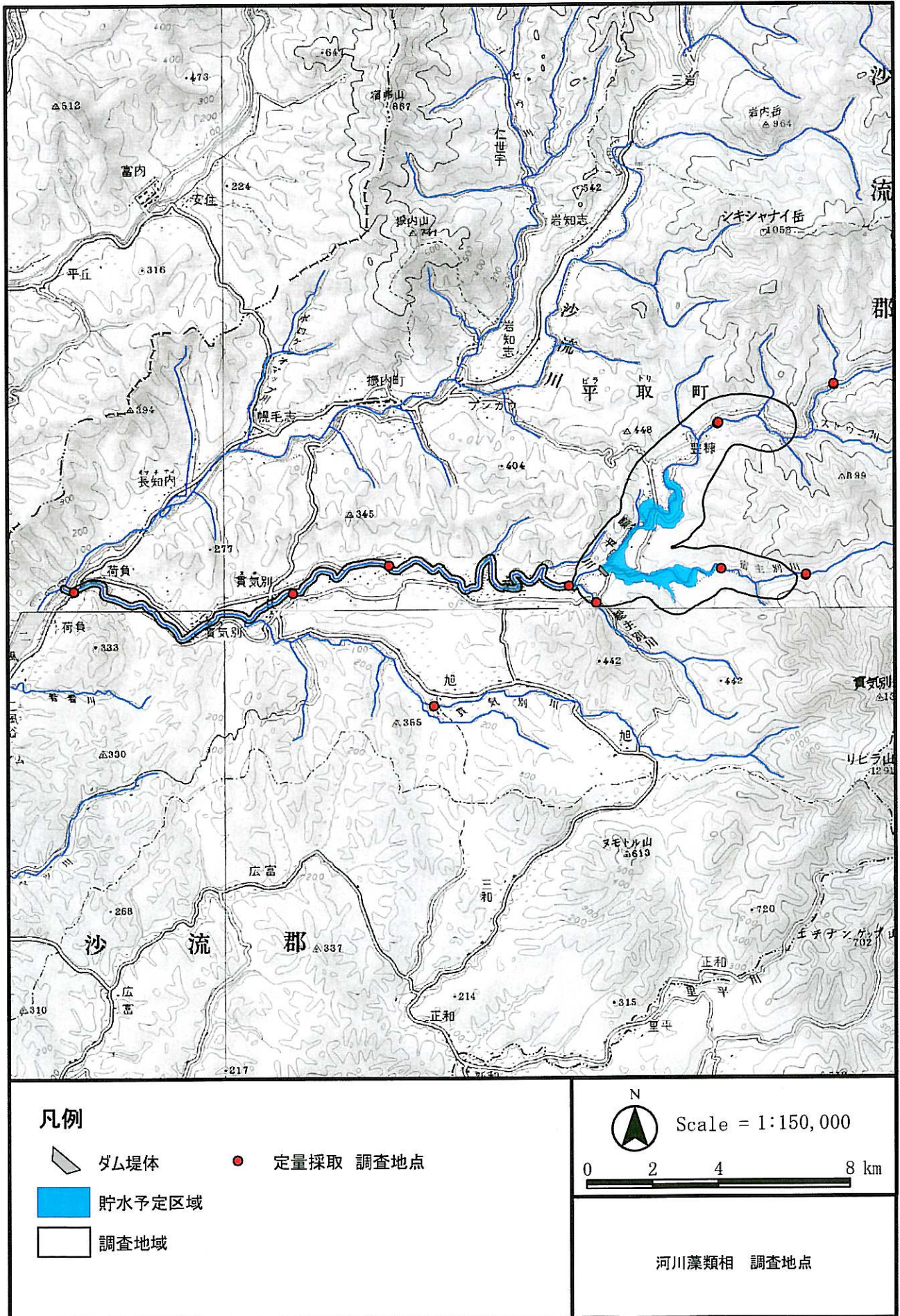
調査項目	調査時期
河川藻類	平成 16 年 6 月 19 日 平成 16 年 7 月 31 日 平成 16 年 8 月 27 日 平成 16 年 9 月 20 日 平成 16 年 10 月 8 日
河川藻類（河床状況調査）	平成 16 年 6 月 28 ~ 29 日、10 月 6 ~ 7 日

調査地点

調査は、額平川、宿主別川、総主別川合流点下流の 3 地点で実施しました。

河床状況調査は、6 月調査は、額平川本流の平取ダム予定地点の上流に 1 地点、下流に 3 地点および宿主別川、総主別川、貫気別川に各 1 地点を加え、計 7 地点で実施しました。10 月の調査は、額平川上流、下流および宿主別川上流にそれぞれ 1 地点を追加して計 10 地点で調査を行いました。

1. 平成16年度調査結果について



平成 16 年度調査結果

確認種

平成 16 年度河床状況調査により確認された藻類は、6 月は、珪藻 29 種、藍藻 3 種、10 月は緑藻 2 種、珪藻 30 種、藍藻 2 種が確認されました。

藻類確認種類数（河床状況調査）

種類	平成 16 年	
	6 月	10 月
緑藻		2
黄色鞭毛藻		
珪藻	29	30
クリプト藻		
藍藻	3	2
合計	32 種	34 種

優占種

平成 16 年の調査の結果では、珪藻の *Nitzschia* spp. (ニツシア)、*Cymbella minuta*、*C. minuta* (クビレツバ) 藍藻の *Homoeothrix* sp. (ホモエトリクス) などの割合が高く、一部地点では *Navicula* 属 (ナヴィクラ) が優占していました。

特記事項

平成 15 年の洪水前の 6 月に実施した調査結果によると珪藻の *Achnanthes linearis* (アクナンテス) が多くの地点で優占しましたが、台風後の平成 15 年 10 月および平成 16 年度の調査結果では、*Achnanthes linearis* (アクナンテス) の出現は、各地点ともわずかでした。

Achnanthes linearis (アクナンテス) 以外の藻類では、多くの地点で、洪水前と類似した種が出現していることから、河川藻類は回復傾向にあると考えられますが、一部の地点では、藻類は全く確認されないなど、回復の遅れが示唆されました。

上記のほかに *Coleochaete* sp.、*Closterium diana*e、*Cosmarium impressum*、*Draparnaldia plumosa* (以上緑藻)、*Toribonema minus* (黄色鞭毛藻)、*Euglena polymorpha*、*Euglena* sp. (ミドリムシ藻) 等過去に出現しなかった藻が出現しましたが、これらの出現も、この水域の藻類相が回復過程にあることを示しています。この中で、*Euglena polymorpha* は二風谷ダムで大量に増殖し“色水現象”を引き起こしているもので注目に値します。

また、量的には少ないものの、藍藻類の *Clastidium setigerum* (クラステジウム) と *Cyanophanon mirabile* (シアノファン) が上流側の調査点で平成 15 年度見いだされましたが 16 年度には確認できませんでした。これら 2 種は、日本では現在のところ札内川上流域の中部-上部でのみ出現することが知られており、日高側でも見いだされたことは河川藻の分布上注目に値します。

ダムサイト予定地右岸上部岸壁の赤褐色付着物は地衣類を主体とした中に、アパトコッカス (*Apatococcus lobatus* 緑藻類、広分布種) が混じったものであり、人為的汚染の無い山間の急峻な岸壁等に生育する希少種である、スミレモ (緑藻類) ではないことが平成 15 年度の調査で確認されています。